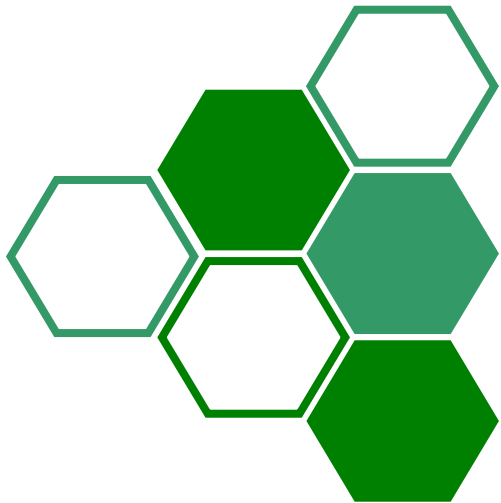


# 次世代へ繋げる中村モデルへの挑戦



株式会社 中村塗装店

活動期間：2020年11月～2021年12月

# 会社概要

【創 業】 1870年（明治3年）創業152年

【設 立】 1946年（昭和21年）3月2日

【本社所在地】 東京都品川区上大崎

【事業部門】 建築・マンション改修・エネルギープラント・工場生産

【事業所】 浦安・丸の内・神奈川 他

【事業概要】

首都圏中心に建物内・外装の“塗装”工事を初めとして、マンションの大規模修繕や橋梁・発電所設備などの鋼構造物への塗装を手掛けています。

他にも自社工場を活用し、大小様々な構造材の塗装を行う事業です。



# 活動背景

創業150周年を迎え、新型コロナウイルスの拡大や新たな法規制に働き方の変化など、新しい環境への転換期を迎えております。

転換期を迎える中で、技術継承を行うために必要な新規技能職者。これまでは技能者の新規採用を高校生に頼っており、例年3名程度を採用していましたが、最近の高校生採用への注目や学生の意識の変化などを受けて、以前のように採用する事が出来なくなってきました。

振り返るに、これまでPRになっていた新入社員への研修などを他社でも採り入れ、実施する事が当たり前になった結果、今では優位性を失い差別化にもならなくなったのではないかと思います。

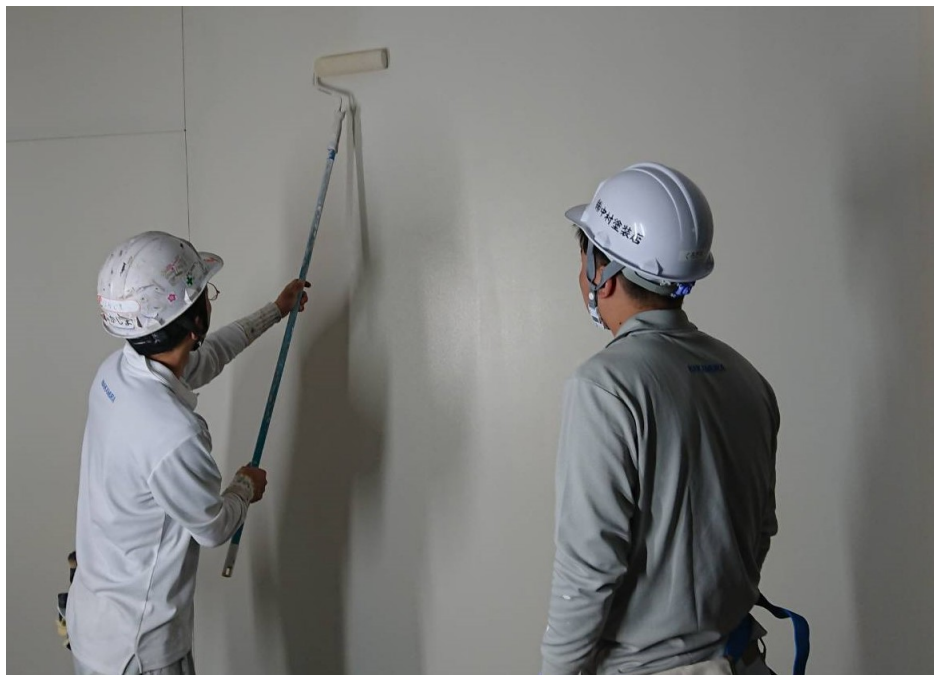
# 活動目的

そこで、次の10年を目指してゆくために、新たなモデルを構築し、新規採用の安定的な確保などを目標に、働きやすい環境を整備していく事を目指しています。

まずは、休暇を取りやすい環境の構築を行うために、仕事の効率化を図り、続いて個々の能力向上を目指しています。

また施工管理者による品質チェックや技能者の業務量の平準化のため、色々な機器を通じて、現場技能者と現場管理者が常に情報を共有することで、技能者と管理者が一体となった現場管理を行い、わずかつでも、技能士たちの手待ちや手直しの時間を減らし、効率よく働ける環境を構築していきます。

# 前回から

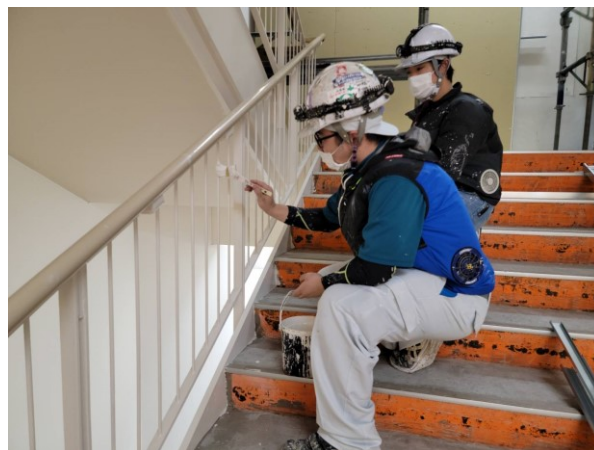


前回、ご支援頂いていた期間中に入社した技能士達も、指導員の手を少しずつ離れ、2年間の学習を終えて塗装学校を卒業しました。中には優秀な成績を収めて卒業時に表彰を受けた者もおります。

# 前回から



建築や塗装への基礎知識、実技の習得を目的に、塗装学校には、前回のご支援以降も毎年継続して入校者を送っております。  
また、新入社員に対しても、引き続き教育役として先輩指導員を付けております。





# 活動成果・効果



現場と管理者を繋いで、現場状況の共有、進捗確認や品質チェックを行うため、WEBカメラのトライアルや購入を行いました。

6月に安全パトロールをオンライン上でトライアルした結果、満足行く画質が確保できない事、塗装面に関しては現地での直接視認が大事であるという認識から、広く活用するまでには至っておりません。

# 活動成果・効果



作業効率の向上を目指すために新しい塗装用具として、圧送式ローラーの試験を9月に本社にて実施しました。結論としては、ローラーやホースの清掃を日々現場で行う事が難しいとの判断から、導入は見送りました。



# 活動成果・効果



塗装を行う上で重要な塗装面の表面処理に使う機械式の集塵機を導入致しました。

機械工を導入した現場では、これまでと比べ、作業効率は向上しました。

全現場での導入は、コストや管理面から難しいですが、今後も利用範囲を広げてまいります。

# 今年度

昨年の活動では、当初計画で予定していた事が実用面において、難しいといった事から、上手く活用できておりませんので、再度挑戦して参ります。

## ・働きやすい環境づくりを目指して

今回、表面処理を行う機械は導入致しましたが、塗装用具はメンテナンスの観点から導入を見送りました。ですが、現場塗装の効率化を図る上では欠かせない道具の一つであるため、改めて導入に向けて進めてまいります。

また、効率向上の一つとして、現場と管理者の情報共有、一体化を目指したWEBカメラ等はトライアル検証を行いましたが、手待ち時間を減らす目的に今一步足りず難航しております。

# 今年度

- ・休暇を取りやすい環境を目指して

休日を除く総出勤日数を250日に定めていますが、その出勤日数を超える技能職種がほとんどとなっております。

有給自体は大半が、かなりの日数を消化しており有給を取得できる空気は出来つつあります。

現場が動いている以上、やむを得ない事ではありますが、勤務状況や工事の進捗状況を把握しやすくする事で更なる改善を目指します。

## 次年度に向けて 新たな試み

- ・当初、I C Tツールなどの利用による効率化を目指していましたが、計画を進めてゆく中で、ただ道具類を現場へ入れるだけでは、十分な結果が果たされないと感じられました。
- ・そこで、現場で働く技能者たちへ見て、触れ学ぶ場所が必要と考えました。まず技能職達への教育や技能の標準化のためにHowTo動画の制作を行います。また、塗装実技の研修を行う際に実施場所の問題を解消させるため、本社内の一部を改装し実技研修を行う場を設けます。そして、技能者への待遇改善やキャリアプランを明確にさせるため、優良職長制度を独自に作ります。